

3.2 造作材の加工【面材】

材種、形状、使用箇所、工法等を明記しますが、＜記入例＞及び加工形状、施工後の写真を参考に記入してください。

材種	画像	形状	使用箇所	寸法	工法	特記事項(共通)
ヒノキ スギ カラマツ サワラ	＜い＞	本実	床	15～30×100～120	継手は受材芯で、乱張り、隠し釘打ち	湿気に依る反りに注意
	＜ろ＞	本実	壁・天井・外壁	12～18×100～120	継手は受材芯で、乱張り、隠し釘打ち	※木表、木裏に注意
	＜は＞	本実(目透し)	壁・天井・外壁	12～18×100～120	継手は受材芯で、乱張り、隠し釘打ち	乾燥に依る痩せに注意
	＜に＞	相決り	壁・天井・外壁	12～18×100～120	継手は受材芯で、乱張り、正面釘打ち	釘はスクリーナー釘使用
相決り(目透し)		壁・天井・外壁	12～18×100～120	継手は受材芯で、乱張り、正面釘打ち	反り止め加工に注意	

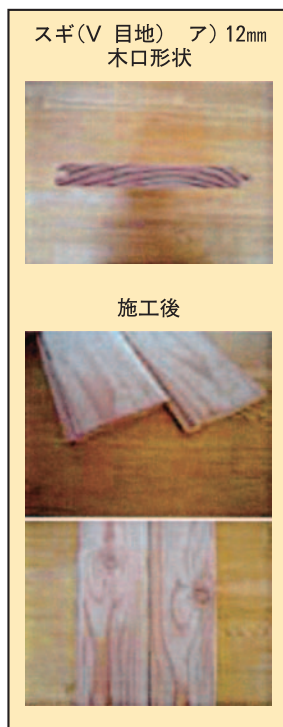
※木表と木裏：板目材の樹芯側を裏目、樹皮側を木表という。木表は木裏より収縮が大きく木表側に反りやすい。また、木理が入り込んでいる為仕上がりも美しい。木裏を使用した場合は木目が浮いて怪我をする場合もあるので注意したい。

加工板材

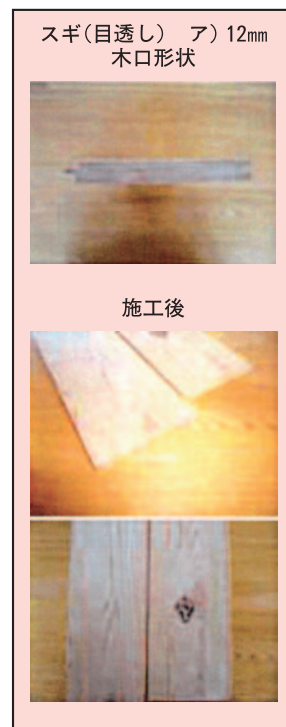
＜い＞ 本実
床



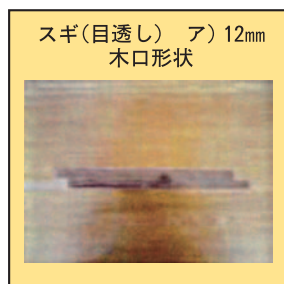
＜ろ＞ 本実
壁・天井・外壁



＜は＞ 本実(目透し)
壁・天井・外壁



＜に＞ 相決り
壁・天井・外壁



<記入例>

【 面 材 】

材 種	形 状	使用箇所	寸 法	工 法	特記事項(共通)
ヒノキ	本実	床	18×120	継手は受材芯で、乱張り、隠し釘打ち	湿気に依る反りに注意 木表、木裏に注意 乾燥による痩せに注意 釘はスクリュー釘使用
スギ	本実	壁	12×100	継手は受材芯で、乱張り、隠し釘打ち	
カラマツ	本実 (目透し)	天井	12×100	継手は受材芯で、乱張り、隠し釘打ち	
カラマツ	相決り	外壁	12×120	継手は受材芯で、乱張り、正面釘打ち	

【参考】 カラマツ羽目板の施工標準の一例を記載しますので参考としてください。

カラマツ羽目板の施工標準 (例)

項 目		〇 〇 工 事		
羽 目 板 材	断面寸法	内壁	12mm×104±0.5mm	
		外壁	15mm×129±0.5mm	
	含水率 (加工時)	内壁	9～12%	
		外壁	※12～15%	
	含水率の確認		モルダ加工前：乾燥釜ごとの抽出検査（乾燥終了時及びモルダ加工仕上げ前の2回、全乾法 [1釜4枚] により測定する。） 林業総合センターによる全乾法試験を行う（3回程度） 納入時：認証材の書類確認 （自主検査表、県産材証明関係書類、林業総合センター試験証明書）	
	さねの長さ		6 mm	
羽目板材 の取付け (内 壁)	接 着 剤	塗布量	メーカー標準 (試し塗りにより塗布量を確認)	
		塗布 形状	板幅全体に行き渡るように波形に塗布 (必要塗布量を確保するため、試し塗りによりピッチを決定)	
	仮くぎの ピッチ	150mm以下		
下 地 材	含水率の確認		納入時：書類確認 施工時：搬入単位ごとに抽出検査を行なう。(合板は除く。)	
	通 気 層		確保する。	

※ 外装用壁板材の認証基準は12±2%であるが、同基準中のただし書き「使用箇所が低湿状態、あるいは高湿状態であることが明らかな場合は想定される含水率にあわせて調節できる。」との規定を適用。

